

先進地に学ぶ視察研修 議会広報特別委員会

議会に対する理解と認識を深めてもらえるように

視察日：平成22年2月9日(火) 視察先：静岡県沼津市議会

沼津市は、首都より100km圏の静岡県東部に位置し、恵まれた自然環境と優位な地理的条件のもとで、東駿河湾地区の交通・商業・文化の拠点として、古くからこの地域の政治・経済・文化の中心的な役割を担ってきました。

現在も、この恵まれた自然環境を生かしながら、都市機能の充実を図り、人々が訪れ、集い、賑わう個性豊かなまちづくり、さらには、市民一人一人が「人が輝き、まちが躍動する交流拠点都市・沼津」の実現を目指して、行政と市民が一体となり、よりよいまちづくりを進めています。

沼津市議会は、「ぬまづ議会だより」により議会の活動状況を広く市民に広報し、議会に対する理解と認識を深めてもらうことを目的として発行に努めてきたとのことです。

「ぬまづ議会だより」は毎号8ページで構成されていますが、およそ半分のページを一般質問欄に費やしています。前回発行した11月号についても、16人の議員によって行われた多岐にわたる活発な質問が、明瞭

で分かりやすく掲載されていました。

なお、原稿の作成は、質問をした議員より「議会だより掲載希望書」を事務局に提出することで、取り上げてもらいたい質問事項について原稿の作成依頼をしているとのことでした。

これは、質問事項の中でも、特に取り上げてもらいたいものを本人より示唆することで、論点の絞り込みができるとともに、質問の中身を公正かつ正確に市民に伝えるためのものとのことでした。

また、特筆すべきことは、沼津市では議会だより原稿のもとになる会議録の作成に反訳システムを導入したことで、定例議会の口述反訳がその日のうちに可能となり、これにより議会だより編集はもとより作業の大幅な効率化が図られ、議会運営にも大きく寄与しているとのことでした。

今後も、議会広報特別委員会は先進地の視察研修等により知識や見聞を広げるとともに紙面の改善に努め、議会だよりを発行することにより、市民に議会に対する理解と認識を深めてもらえるよう努力してまいります。



菊池節子 議員

新庁舎建設より北学校給食センターの建てかえを

問 私どもがやっている市民アンケートでは、新庁舎建設反対は七〇%以上になっている。「無駄な事業はやめて生活に必要なものを作ってほしい」というのが市民の声である。

答 北学校給食センターの建てかえは急務である。

問 教育次長 北学校給食センターと南学校給食センターの合併の方向の答申が出ています。これを受けて今後の方針をまとめていきたい。

問 県西総合病院統合の話が出ているが対策は

答 筑西市民病院との統合の話が筑西市の方から聞こえてきている。対策はどうなっているのか。
市長 県西総合病院の喫緊の課題は医師不足の解消です。県西地区の中核病院としての役割の復活を図ります。



真壁町大和町にある「神武天皇遥拝殿」

問 上野原地新田のサテライト建設計画について

答 区長がキャンセル施設に関する回覧板を回したとのことだが、市長の見解は。

問 建設部長 サテライト建設の申請の提出はありません。

問 神武様への市有地無償貸与への対策は

答 神社への市有地無償貸与は憲法違反との判決が出された。市としての対策は。

問 総務部長 違憲状態を解消するため、関係者と協議を進めていきます。

問 旧下泉分校跡地の建物は、従前より選挙時に堤上・下泉・本郷各行政区の投票所として使われていた。取り壊しにより坂戸小学校が投票所になると、お年寄りや体の不自由な方が選挙を棄権することが考えられる。



旧下泉分校跡地

答 また、この建物は子どもたちの通学時のスクールバス待合所として使用され、堤上地区の非常時待避所でもあり、地域住民の重要な施設である。

問 取り壊しについて市としての考えを伺いたい。

答 総務部長 投票所については、各区長さんの了解を得た上で坂戸小学校が適当であると判断し、

また、各地区等に出向き、その地区の皆さんの生の声を直接聞くことにより、市の行政に反映ができれば大変すばらしいことであると思えます。

大塚健次 議員

旧下泉分校跡地建物の取り壊しについて

選挙管理委員会において変更決定した次第です。取り壊し及び投票所変更については、諸般の事情をかんがみ、再度地区との協議を進めていきたいと考えています。

問 「市長と語ろう市民の日」について

答 「市長と語ろう市民の日」は大変いい企画だが、情報を公開、共有することで有効利用ができないか。

問 また、市長が各地区に出向き、「出前市長と語ろう」形式の考えはないか伺いたい。

答 市長 市民からのご意見の内容を分類ごとに区分して公開することは可能かと思えます。公開することで市政に対する市民意識が高まり、新たな発想が生まれてくることもあると思えます。

また、各地区等に出向き、その地区の皆さんの生の声を直接聞くことにより、市の行政に反映ができれば大変すばらしいことであると思えます。